



「森・里山保全における企業の役割  
—森林環境コミュニケーションづくりにむけて」

## 森林活用セミナー

平成14年3月27日(水)

14:00~17:00

全共連ビルCVホール



主催: 全国森林組合連合会

協力: 里山から考える21世紀実行委員会

後援: 林野庁

社団法人 国土緑化推進機構

勤労者ボランティアセンター

日経BP環境経営フォーラム





## ごあいさつ



現在、日本の森や里山は、経済的豊かさを追いかけるあまり、放置され荒れた状態になっています。本来、森や里山は、生物多様性の場、食糧生産の場、水資源確保の場、用材確保の場、保健休養の場、教育の場・・・であり、また、昨今では二酸化炭素吸収源、新エネルギー確保の場として、その機能価値に大きな注目が寄せられています。私たちは、この森や里山をまもり、再生し、その機能を回復させていくことが、21世紀の持続可能な社会システムを構築するための重要なファクターの1つであると考えています。そして、それを実現していくためには、市民やNPOと企業、行政がパートナーシップを形成しながら共通の目標に向かって取り組んでいくことが大切だと考えます。とりわけ企業や企業人の関わり・協力、自主的取組が、経済的かつ人的エネルギーとして、さらには新たな産業構築という視点からも、とても大きな意味、役割を担っているのです。私たちは当セミナーを通じて、森や里山保全における企業と企業人が取り組む意味と役割を提示しながら、皆様とともに実際に取り組む為の方法を探っていきたいと考えております。

### 全国森林連合組合

森林所有者が互いに協同して林業の発展を目指す協同組合で、全国組織として販売・購買・共済・指導の各事業のほか、林業者・山村の立場から政策の提言を行っています。また、森林組合は、森林所有者自らの相互扶助の組織であるとともに森林造成を通じて木材供給のほか、国土保全・水資源かん養・環境保全・文化・教育・レクリエーションの場の提供など、森林を通じた人間の生活環境の保全にとって重要な役割をもつものとして位置付けられています。最近の取り組みとして、「誰だれ森もりネットワーク」という持続可能な森林管理システムづくりを行っています。

### 誰だれ森もりネットワーク

「森林は誰のもの？」というテーマに基づき、市民と企業と林業者が情報提供などを通じてつながる新しいコミュニケーション・ネットワークです。年2回、森林の活用を行っている企業の取り組み事例を皆様のもとにお届けする情報誌『誰だれ森もり通信』の発行や森林を所有される方々、森林の作業を望まれる方々、森林整備への支援を望まれる方々に情報の提供を行う窓口としての機能、森林の活用セミナーの開催などを行っています。

## プロフィール

### 基調講演



内山 節 氏

うちやま たかし

1950年東京生まれ。NPO法人・森づくりフォーラム代表理事。在野の哲学者として人々の労働、自然、川、山村、フランスの田舎の生活等、独特の視線と感性をもって現代を鋭く分析する。主な著書は「森にかよう道」「森の列島(しま)に暮らすー森林ボランティアからの政策提言」「森林社会学」宣言」「自然と人間の哲学」「時間についての十二章」など。

### 第2部・スピーカー



坂井 武志 氏

さかい たけし

1937年生まれ。2000年、NPO法人・森づくりフォーラムを設立し、常務理事・事務局長に就任。市民参加の森づくりの輪を広げるための環境づくりや行政とのパートナーシップのあり方等に取り組んでいる。

### 第1部・スピーカー



赤池 学 氏

あかいけ まなぶ

1958年生まれ。ユニバーサルデザイン総合研究所所長。筑波大学生物学類卒業。「生命地球主義」「生活者重視社会」「循環型社会」をキーワードに製造業、科学技術分野を中心として幅広い執筆、評論を行っている。主な著書は「メルセデス・ベンツに乗るということ」(共著、TBSブリタニカ)「ローテクの最先端は実はハイテクよりずっとスゴいんです」「日本のモノづくりはいつの時代も世界のお手本なんです」(ウエッジ)など。

### 第2部・スピーカー



肱黒 直次 氏

ひじくろ なおじ

1955年生まれ。全国森林組合連合会組織グループ長。昨年、『誰だれ森林もリネットワーク』を立ち上げ、21世紀以降に持続可能な森林管理システムづくりを目標として、市民・企業・林業者の連携による森林整備体制づくりを呼びかける。

### 第1部・スピーカー



宇都木 法男 氏

うつぎ のりお

1943年生まれ。公労協事務次長、総評政治局次長、総評センターを経て、1997年から財団法人 勤労者リフレッシュ事業振興財団 勤労者ボランティアセンター主幹。共著に「ボランティアへの招待」(岩波書店)など。

### 進行



穂谷 豊 氏

わらい ゆたか

1954年横浜市生まれ。プランナー。ワークショップ・ミュー代表。「環境教育」「環境文化」「情報編集」をキーワードに、イベント、出版、デジタル・プロダクト、映像、施設、まちづくり等の企画・プロデュースを手がける。主な編著に『「まなび」の時代へー地球市民への学び・30人の現場』(小学館)、『ボランティア 21世紀の社会人』(亜紀書房)。スライドプログラム『一本の樹』監督。



- 14:00 主催者挨拶 飯塚 昌男（全国森林組合連合会代表理事会長）
- 14:10 基調講演 森林に関係する人々や機関、地域・都市の人々、企業、ボランティア、NPO、行政の新しい関係をつくりだすために  
内山 節（NPO法人森づくりフォーラム代表理事）
- 14:40 第一部 企業と企業人による森づくりの意義と課題 ～企業と企業人への提言～  
座談会 赤池 学（㈱ユニバーサルデザイン総合研究所所長）  
宇都木 法男（勤労者ボランティアセンター主幹）  
薬谷 豊（里山から考える21世紀実行委員会事務局長）／進行
- 《論点》
- 21世紀の企業戦略と森づくり
    - ・企業と京都議定書と二酸化炭素の吸収・固定源としての森林との関係
    - ・企業と森林の持つ様々な機能、国産材利用の意味の関係
    - ・企業の森林環境コミュニケーションの重要性
    - ・社会貢献活動としての森づくり
    - ・企業人ボランティア活動としての森づくりの可能性
    - ・雇用対策と森づくり
  - 課題
    - ・企業（社内）と企業人（社員）への意識付け方法
    - ・パートナー（受け皿）とプログラム
- 15:50 第二部 企業の森づくりパートナーシップ  
座談会 坂井 武志（NPO法人森づくりフォーラム事務局長）  
舩黒 直次（全国森林組合連合会組織グループ長）  
薬谷 豊（里山から考える21世紀実行委員会事務局長）／進行
- 《論点》
- 里山保全の受け皿づくり
  - 企業の森づくりの受け皿としての森林組合の可能性と課題
  - 企業人の受け皿としてのNPOの可能性と課題
  - 企業と企業人向けの多様なプログラム開発の必要性
  - コーディネーターの重要性（担い手は誰？）
- 16:50 終了

